vinetur

オクシタニーのバルクワイン価格、2025～2026年シーズンに2%上昇

取引量は1%増加した一方、輸出は減少し、生産コストは2020年比で27%高い水準にとどまった

2026年11月21日（土）



オクシタニーのバルクワイン市場は2025～2026年シーズンを通じておおむね安定し、平均価格は2%上昇、取引量も1%増加した。一方、フランスの同地域からの輸出は低迷し、ブドウ栽培者は引き続き高い生産コストに直面した。

11月20日（金）に公表された報告書で、DRAAF OccitanieとAgresteは、2025年8月1日から2026年7月31日までのシーズンに、同地域産バルクワインの平均販売価格が1ヘクトリットル当たり92ユーロだったと発表した。地理的表示保護制度のIGP、および地理的表示のないSIGに基づくバルクワインの取引量は、合計716万ヘクトリットルに達した。

前シーズンからの伸びは小幅にとどまった。報告書によると、取引量は2020～2024年の5シーズン平均を4%下回り、価格もなお同平均を2%下回っていた。同時に、生産コストは2020年以降27%上昇しており、価格が最近持ち直したにもかかわらず、多くの生産者で利益幅が縮小している。

オクシタニーは欧州有数のバルクワイン供給地であり、同地域の価格、供給可能量、輸出需要の変化は、地域から大量調達するワイナリーや瓶詰め業者、その他の飲料企業の仕入れ条件、利益幅、調達判断にも影響しうる。そのため、この動向は地域のブドウ畑を越えて重要な意味を持つ。

バルク販売は地域のワイン経済の中心的な役割を担っている。報告書によると、2020～2025年にSIGおよびIGPの表示でバルク販売されたワインは、オクシタニーのワイン総生産量の平均で55%を超えた。

2025～2026年シーズンは、カテゴリーによって異なる動きを示した。市場を押し上げたのはSIGワインで、取引量は5%増の185万1,000ヘクトリットル、平均価格は1%上昇して1ヘクトリットル当たり81ユーロとなった。IGPの取引量は530万8,000ヘクトリットルで横ばいだった一方、価格は3%上昇して1ヘクトリットル当たり96ユーロとなった。有機バルクワインは逆の動きとなり、取引量は8%減の24万8,000ヘクトリットルだった。平均価格は1%上昇して1ヘクトリットル当たり139ユーロとなったが、5年平均をなお10%下回った。

市場で最も堅調だったのは白ワインだった。報告書によると、白ワインは赤ワインやロゼワインを上回る伸びを、取引量と価格の両方で記録した。オクシタニーのバルク取引に占める白ワインの割合は、2021年の27%から2025年には32%に上昇した一方、赤ワインの割合は同期間に6ポイント低下した。IGPの白バルクワインは平均で1ヘクトリットル当たり113ユーロとなり、前シーズン比で4%上昇した。SIGの白ワイン価格は2%上昇し、1ヘクトリットル当たり94ユーロとなった。ロゼの価格は弱含み、SIGのロゼは2%下落し、IGPのロゼは横ばいだった。

報告書によると、2025年の収穫量が少なかったことと、22万8,000ヘクトリットルを対象とする蒸留措置を受けて在庫が逼迫し、シーズン終盤に価格上昇の勢いが強まった。7月の月間価格は、2025年7月の水準と比べてSIGワインで11%、IGPワインで13%、有機ワインで7%高かった。それでも、DRAAF OccitanieとAgresteによると、6月のバルクワイン価格は2020年の水準とおおむね同程度にとどまり、販売価格と投入コストの隔たりが浮き彫りになった。

市場を取り巻く環境は依然として厳しかった。報告書が歴史的な不作とした2024年の後、世界のワイン生産量は2025年にわずかに回復し、前年比0.9%増の2億2,700万ヘクトリットルとなった。世界最大の生産国は引き続きイタリアで、生産量は4,400万ヘクトリットルとフランスを上回った。フランスのワイン生産量は2025年に2%減少し、3,500万ヘクトリットルとなった。

オクシタニーの2025年の収穫量は1,060万ヘクトリットルで、2024年比7.2%減、10年平均比22.5%減だった。報告書は、この減少の大部分をブドウ畑面積の縮小に関連づけており、2025年にはブドウ樹の引き抜き制度のもとで1万6,000ヘクタールが公的支援を受けた。報告書が引用した税関データによると、2025年8月時点の国内ワイン在庫も、2024年8月比で5%減少していた。

ワイン市場の需要動向も圧力に拍車をかけた。DRAAF OccitanieとAgresteによると、世界のワイン消費量は2024年から2025年にかけて2.7%減少し、2億800万ヘクトリットルと過去30年間で最低の水準となった。報告書は、米国で需要が成熟していること、2018年以降の中国の消費量の急減、欧

州で長期にわたり続く消費減少、2025年の地政学的な貿易混乱を要因として挙げた。報告書によると、フランスのワイン消費量は1995年以降37％減少している。

オクシタニーからの輸出にも、需要の低迷が表れた。同地域産のIGPおよびAOPワインの出荷量は、2025～2026年シーズンに前年度比で5.6％減少し、金額ベースでは8％減となった。平均輸出価格は2.7％下落した。減少が最も大きかったのは米州で、輸出量は10％減、平均価格は11％下落した。他の仕向け先では価格がわずかに上昇したものの、数量の減少を補うには至らなかった。報告書は、保護主義的措置も輸出に影響したと指摘した。

供給面では、大きな明るい兆しが一つあった。10月1日時点で、オクシタニーの2026年の収穫量は1,300万ヘクトリットルと推計され、2025年比23％増、5年平均比5％増となった。DRAAF OccitanieとAgresteによると、この増加は、2020年以降に生産可能なブドウ畑の面積が16％縮小し、夏が非常に暑かったにもかかわらず達成された。ラングドック・ルーションの生産量は25％増の1,110万ヘクトリットル、オクシタニーに位置する南西部盆地の一部は12％増の190万ヘクトリットルと推計された。

両機関は、この回復はオクシタニーに特有のものであり、同地域のブドウ畑はフランスの他の多くの地域より高い回復力を示したと述べた。2026年のフランス全国の収穫量は、2025年に記録した歴史的な低水準から4％増にとどまる見通しだった。